

SSI 学会誌編集委員会 2014 年度第 1 回委員会 議事録

日時：2014 年 6 月 14 日（土）12:00～13:00

場所：中央大学駿河台記念館 560 号室

出席者(敬称略)：

橋元良明[委員長] (東京大学)、遠藤薫[副委員長] (学習院大学)、北村順生[副委員長] (新潟大学)、櫻井成一郎[副委員長、英文誌主任] (明治学院大学)、(以下 50 音順) 伊藤賢一 (群馬大学)、今田寛典 (広島文化学園大学)、岩井淳 (群馬大学)、大國充彦 (札幌学院大学)、岡田安功 (静岡大学)、河又貴洋 (長崎県立大学)、北村智 (東京経済大学)、五藤寿樹 (日本橋学館大学)、関谷直也 (東京大学)、田中秀幸 (東京大学)、野田哲夫 (島根大学)、山本佳世子 (電気通信大学)、吉田寛 (静岡大学)

欠席者(敬称略)：

岡田勇 (創価大学)、小笠原盛浩 (関西大学)、金相美 (名古屋大学)、黒須俊夫 (国士舘大学)、小郷直言 (大阪大学)、後藤玲子 (茨城大学)、是永論 (立教大学)、服部哲[ネットワーク担当] (駒澤大学)、松下慶太 (実践女子大学)、吉田純 (京都大学)

(文責：北村)

【報告事項】

1. 和雑誌発行状況

第 2 巻 3 号編集長の今田寛典・岡田安功両委員より、採択された論文の本数が少なかつたために同号の刊行が遅れたこと、最終的に投稿論文 2 編 (いずれも原著論文) と、活動報告 4 編を掲載する予定であること、会員向け発送が 6 月 27 日に行われる予定であることが報告された。なお、同号の発行日付は、6 月 30 日付けとすることになった。

また、第 3 巻 1 号に掲載が先送りされる採択済み論文が 2 編あることが報告された。

2. 第 3 巻 2 号 (2014 年 12 月刊行予定) から電子化の確認

前回編集委員会で承認され、その後の理事会で正式決定されたように、2014 年 12 月刊行予定の第 3 巻 2 号より、和雑誌も電子化することが確認された。

3. 共著者も会員であることが資格要件であることの確認

前回編集委員会で承認されたように、2014 年 4 月 1 日投稿分から、共著の場合はすべての著者が会員であることが資格要件になることが確認された。(審議事項 4. で投稿要綱の改正)

【審議事項】

1. 前回議事録の承認

前回編集委員会（2013年12月14日）の議事録を確認し、承認した。

2. 今後の編集担当責任者（編集者）

未定であった第3巻2号以降の編集長について検討し、第3巻2号については北村智委員と小笠原盛浩委員に、第3巻3号については関谷直也委員に担当を依頼することになった。なお、第3巻3号の編集長の残り1名は、現在打診中の委員の返事を待った上で、ご快諾いただけなかった場合には、関谷委員に検討を依頼することになった。

[今後の編集長の予定]

第3巻1号（2014年6月刊行予定→9月ごろ刊行か） 小郷直言・五藤寿樹各委員

第3巻2号（2014年12月刊行予定） 北村智・小笠原盛浩各委員

第3巻3号（2015年3月刊行予定） 関谷直也委員+1名（未定）

3. 今後の編集方針

（1）第3巻1号以降の企画について

採択される投稿論文が最近減少している状況に鑑み、第3巻1号の論本文数を確保するための特集企画について審議した。その結果、次のような方策を検討することになった。

- ・昨年度大会のシンポジウムⅠおよびシンポジウムⅡの原稿については、引き続き橋元委員長および遠藤副委員長が登壇者からの原稿を取りまとめて掲載する。テープ起こしの記録が欠けている部分に関しては、簡単でもいいので登壇者に文章化してもらうことを依頼する。
- ・今年度以降の大会シンポジウムに際しては、各登壇者宛に編集長名による原稿執筆依頼状を事前に渡しておき、確実にシンポジウムの原稿が掲載されるようにする。
- ・同様に、大会で開催されるワークショップに関しても、各司会者宛に編集長名による原稿執筆依頼状を渡しておき、ワークショップ登壇者からの寄稿を促すようにする。
- ・社員総会シンポジウムや各支部で開催する研究会に関しても、寄稿を呼び掛ける。
- ・学会論文賞を受賞した論文に関して、各論文の要約を寄稿してもらうようにする。

（2）第3巻2号以降の企画について

第3巻2号以降に掲載する本格的な特集企画については、9月の大会期間中に開催される次回編集委員会の際に、各委員が企画案を持ち寄って検討することとなった。

4. 投稿要綱の修正

資料に基づき、投稿要綱の改定の審議を行った。共著の場合も全著作者が学会員であることを資格要件とする趣旨である。第2条について、「共著の場合は、著者のうち1名以上が学会員でなければならない。」とあったのを、「共著の場合は、すべての学会員でなければ

ならない。」と改めることを承認した。また、付則について、「付則 この要綱（改正）は、2014年4月1日に遡及して施行する。」と改めることを承認した。

5. 2015年度からの「優秀論文賞・論文奨励賞」の推薦体制

表彰委員会から編集委員会に対して、優秀論文賞および論文奨励賞の候補論文の推薦依頼があった。審議の結果、査読シートにチェック欄を設けておき、各賞の候補として推薦に値する論文であると査読者が判断した論文に対しては、チェックを記載してもらうことになった。そして、3名の査読者のうち1名でも推薦する査読者がいた論文については、編集委員会として表彰委員会に推薦することにした。

なお、論文の投稿種別に関しては、「原著論文」と「研究」とは同格であるという位置づけなので、「原著論文」および「研究」の両方の投稿種別の論文ともに推薦の対象とすることを確認した。

6. その他

(1) 電子著作物の学術著作権協会への権利委託について

橋元委員長が2014年5月20日付けメーリングリスト宛メールで照会したように、本学会の電子著作物の複製ならびに著作物の電子化等に関する著作権等管理業務について、権利委託を行うよう学術著作権協会から案内が来ているが、その対応について審議した。その結果、五藤委員が学術著作権協会に詳細について問い合わせをした上で、あらためて審議を行うことになった。

(2) 投稿受付台帳の責任総括者について

前回編集委員会で、投稿審査に関する情報をまとめた投稿受付台帳を保管する責任総括者を設けることになった。審議の結果、当面は岡田勇委員を責任総括者とする事になった。

(3) 英文誌の印刷業者の変更について

櫻井副委員長より、これまで英文誌の印刷業者については和文誌と同様に朝日印刷工業（群馬県）に発注してきたが、対応の悪さが指摘されたこともあり、勝美印刷株式会社（東京都）への変更が提案された。審議の結果、了承された。

以上